

活動終了報告書（要約）

採択年度	2019 年度
コード番号	19-A-063

団 体 名	一般社団法人 Think Locally Act Globally	申請額
		998,500 円
事 業 名	スリランカ国マータレー市における 3 民族共生による貧困女性生計向上プロジェクト	助成額(受領額)
		998,500 円
		事業地(国名)
		スリランカ

組 織 及 び 事 業 概 要

■ 組織概要〈創立年、趣旨、主な活動等〉 * 300 字以内

一社) Think Locally Act Globally は、日本の地方（特に北陸地域）が直面している少子高齢化や集落の持続性などの地域課題と、途上国の地方が直面している課題（貧困、環境、保健、教育等）について、日本と途上国の地域の人々が互いに学び合いながら、国際協力を通じて共に解決していくことを目指し、2015 年 3 月に設立しました。具体的には以下の 3 点を主な活動目的としています。

- 1) 日本の地域（特に北陸）の地域づくり活動を効果的な国際協力につなげること
- 2) 日本と途上国の学び合いによる地域づくり活動を実践すること
- 3) 国際協力活動を日本の地方の課題解決に活かしていくこと

■ 今回実施した活動の概要) * 400 字以内

2019 年 4 月のスリランカのテロは民族間の軋轢を生じさせた。一方、マータレー市はシンハラ人、タミル人、ムスリム人が共存しているが各民族に貧困層が存在する。特に女性は安定した収入源がなく生計向上の手段を必要としている。本事業は貧困層女性の生計向上に取り組みエンパワーメントを図ると共に、3 民族の民族融和に貢献することを目指した。

当初は、最初から 3 民族のコミュニティーを対象に事業を実施する計画であった。ただ 2020 年 2 月からの新型コロナウイルス拡大の影響により度々ロックダウンが行われ、複数のコミュニティーで活動を実施することが難しくなった。そのためまず貧困家庭が多いタミルのコミュニティーを支援対象とした。活動の中心は、コロナ禍でも住民らが作業しやすい家庭菜園を導入し、貧困層の栄養改善と生計向上のためオーガニック家庭菜園を支援することにした。収穫物の一部は貧困層の自家消費として、上手くできたものの販売を目指した。

■ 成果 * 400 字以内

2021 年 3 月に貧困層の多いタミルの Kaludewela 地区で活動を開始し、総勢 30 人の女性が参加した。メンバーは一連の研修を受講後、専門家のアドバイスを受け、オーガニック家庭菜園を作ることができた。収穫した多品種の野菜を家族が摂取すると共に、購入する家計の支出が減少した。収穫した野菜を売り、得たお金で肉、魚、卵を買ったり、近所の人と物々交換をするようにもなった。家計への貢献と共に栄養改善にも役立っている。

2022 年 3 月にメンバーが共同で販売できる販売拠点を設置し、販売会を実施した。この経験を他のメンバーと共有し、今後の定期的な販売会への実施につなげていく。今後は活動をシンハラ、ムスリム、タミルの 3 民族が住むコミュニティーへ活動を広げていく計画である。1 年目の活動で得た経験や教訓を新しいコミュニティーのメンバーへと伝えていく。それにより 3 民族の理解促進とコミュニケーションの促進、民族融和に貢献していく。